

心地良い汗を流した秋の一日

～市民スポーツ・健康フェスティバル～

10月1日(日)、岡志別の森運動公園と市民プールで『市民スポーツ・健康フェスティバル』（市、文化・スポーツ振興財団主催）が開かれました。

この催しは、スポーツなどを通して市民の健康増進を図ることを目的に、毎年この時期に開催されているもので、市民約2,000人が参加しました。

晴れ渡った秋空の下、岡志別の森運動公園では、『市民パークゴルフ大会』『市民ソフトボール大会』『駅伝競走大会』『キンボール大会』が行われ、参加者は家族や友人の声援を受けながら、心地良い汗を流していました。

市民プールでは、『健康コーナー』『水中運動教室』などが行われ、子どもたちを対象にした『水中フラッグ競争』や、水中の景品がもらえる『宝物探し競争』では、子どもたちが楽しそうに水しぶきを上げていました。

また、日本工学院北海道専門学校しん灸科（しん灸科）の学生によるリラクゼーションルーム『癒し処』も設けられ、丁寧なマッサージが来場者から好評を得ていました。



▲キンボール大会



▲リラクゼーションルーム『癒し処』

子どもの気持ちを理解して

～家庭教育・

子育て支援講演会（ワークショップ）～

10月11日(水)、市民会館で『家庭教育・子育て支援講演会（ワークショップ）』（市主催）が開かれ、家庭教育学級の会員や子育てに関心のある方など55人が参加しました。

講演会は、『心を育てる聴き方・話し方』をテーマに、青柳宏さん（文化女子大学室蘭短期大学教授）が講師となり進められました。

青柳さんは、「子どもの気持ちを理解してあげることが大切です。忙しいからと、子どもの話を片手間に聴くと、子どもはいい気持ちはせず、ちゃんと聴いてくれないと思います。日常の中で、じっくり話を聴いてあげる態度をとれば、子どもの反応は変わってきます。ぜひ、実践してください」と述べていました。



裁判員制度への理解を深めました

～第3回裁判所市民講座～

10月11日(水)、札幌地方裁判所室蘭支部で、第3回裁判所市民講座『え！私が裁判員～聞かせてくださいあなたの正義～』（同支部主催）が開かれました。

この講座は、平成21年5月までに始まることになっている裁判員制度（裁判に対する信頼の向上を目的に、国民の中から選ばれた裁判員が、殺人などの重大な刑事事件を裁判官と一緒に裁判する制度）への理解を深めてもらおうと開催されたもので、登別市をはじめ、胆振管内各地から37人が参加しました。

この日は、カラオケスナックで発生した殺人未遂事件の模擬裁判が開かれ、事件の内容の説明や、検察官による論告と弁護人による弁論の後、裁判官と参加者で証言の信用性などについて話し合う評議の体験が行われました。

参加者は、「アメリカやイギリスで陪審制が行われており、とても勉強になりいいことだと思います」と述べ、3年以内に始まる制度に向けて意欲的に取り組んでいました。

